

白河地区保護司会会報

更生保護 しらかわ

白河地区保護司会
サポートセンター
白河市表郷番沢字和田46-9
TEL 0248-21-5922
発行者：新妻 眞孝
編集者：広報部 会
題 字：三森 繁
会報アドレス
<http://www.srkw.or.jp/~mimo/hogoshi/>



パソコン・スマホ講習会
(サポートセンターにて)

保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって

一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。

一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の防止に努めます。

一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

平成六年五月制定



ご挨拶

白河地区保護司会

会長 新妻 眞孝

平素より更生保護活動に深いご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の五月よりコロナウイルスが五類に引き下げられ、三年間のブランクには大きいものがありますが、会員の皆様のご理解とご協力により、令和五年度の事業を予定通り実施しています。

特に、学校と地元の保護司が連携し信頼関係を深めるた

め地区内の全小・中学校の訪問を行うなど社会を明るくする運動を実施することができました。

また、地区内市町村での「再犯防止推進計画」の策定にご協力し、子供や大人が互いに支えあい、安全で安心して暮らせるよう、また、罪を犯した人や非行のある少年が少しでも早く社会復帰できる社会環境を整えて参りたいと考えてます。

今年度の重点事業である「ICT事業」にも取り組んでいるところですが、科学の進歩と時代の流れに負けないよう皆様と共に学びながら推進したいと思っております。

大河ドラマ「どうする家康」が放映されました。家康の遺訓で皆様も知っている「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。」や宮沢賢治の雨ニモマケズ「東に病氣の子どもあれば行って看病してやり西に疲れた母あれば行ってその稲の束を負

い南に死にそう人あれば行ってこわがらなくてもいいと言いい北に喧嘩や訴訟があれば」にもありますが、ゆつくりとした時間の中でしか見えないものを感じ、利他の心で寄り添うことも大切であると思えます。

また、助けを借りながら他者への思いやりの心を持って手助けをすること、保護司活動の助けとなるヒントが隠れているように思います。

今後とも、SDGsの理念のひとつである「誰一人取り残さない社会」の実現のため、保護司会は犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域力の力として、明るい社会づくりに積極的な役割を果たして参る所存であります。

つきましては、保護司会への皆様方の更なるご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。



人はみな、生かされて生きてゆく。

再犯防止を通じた地域社会への貢献



福島保護観察所長

中島 明

白河地区保護司会の皆様におかれましては、日頃から、保護観察、生活環境の調整、犯罪予防活動などの更生保護活動にご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年五月の総会にお伺いさせていただきましたが、白河地区では、保護司の負担軽減や保護司会活動の充実のため、早くから ICT 化の推進に取り組んでおられるところ、さらにその取組を進めるため、今年度から保護司会の組織を見直すなどしているところと伺います。白河地区の取組は先駆的であり、他の地区にも大いに参考になりますので、是非、その成果を他地区にも発信・共有していただけたらと思います。

及び中島村においては、令和五年春に地方再犯防止推進計画を策定していただきました。矢吹町、西郷村及び泉崎村においても策定に前向きなお話をいただいております。

犯罪や非行は許されるものではないかもしれませんが、その背景には様々な生きづらさが存在していることが少なくありません。そして、その生きづらさに寄り添い、人と人が互いに支え合える地域社会を築くこと、また、犯罪や非行をした人が罪を償い、立ち直りに向けて努力しているならば、それを排除せず、見守ることができる地域社会を築くことこそが、犯罪や非行のない社会の実現につながってまいります。

保護観察所としても、地方公共団体を始めとした地域の関係機関・団体との連携をより一層強化して、「息の長い支援」を推進し、再犯防止を通じて地域社会に貢献してまいりたい所存ですので、引き続き皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



福島保護観察所
保護観察官

佐藤 風太

より身近な更生保護に向けて

平素より更生保護の諸活動に御尽力いただき、心から御礼申し上げます。

白河地区担当二年目となりました。令和五年を振り返ると、保護観察官の専門性だけでは対応できない場面があり、保護司・関係者の人生経験や長く地域にいらることで培われた力に助けをいただくことが多く、「協働」の重要性を実感した一年でした。

さて、保護観察において、我々の関わる期間は対象者によって様々です。改善更生した姿を見届けることもあれば、改善半ばで期間が終わることもありま

す。時々、保護観察終了した対象者の家族・関係者から不安の相談を受けることがあります。これまでの保護観察所は期間を過ぎると関わる法的根拠が無くなってしまったため、力になることが難しい状況でした。

しかし、令和五年十二月の改正更生保護法の施行により、地域援助制度が新設され、こうした家族・関係者の相談に保護観察所が対応できるようになりました。具体的には、元保護観察対象者を始めとする支援対象者に対し、医療・保健・福祉・就労等につながるための援助を行うこと、

地域住民や関係者からの相談に乗り、専門的助言を行ったり、地域で支援を行う事業者につなげていくこと等を予定しています。

地域援助は、社会復帰に関する支援で御活躍されている個人・団体との連携が不可欠ですが、各地域の支援者を保護観察所のみで把握・連携していくことは難しく、保護司会を始めとする関係団体や長く地域に住まわっている方々のお力添えがあつて初めて実現する制度だと考えています。

小職自身、再犯防止に関わる方々のネットワーク拡大に資するため、より一層業務に励んで参りますので、更生保護関係者の皆様におかれましては引き続きの御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

法務大臣表彰を受賞して

理事 加藤 芳子

第四〇回県更生保護大会において、このような栄えある顕彰を受けましたことを大変光榮に思うと同時に恐縮しております。

改めまして福島保護観察所関係の皆様、地区保護司会の会長を初めとする会員と先輩の方々のご指導の賜と心から御礼申し上げます。

地域の先輩から保護司の話を

いただいた時は、初めて耳にする言葉に不安が横切り「私にはできません」と即答してしまいました。ところが先輩から「やってもいいのになんて言えるの?」と言われて断ることができず、夫からの後押しもあり引き受けました。そして初任者研修を受けるとますますその重責に押しつぶされそうになり「私にできるの

だろうか?」と不安でいっぱいだったことが昨日のスタートだったことが昨日のように思い出されます。

同時に先輩から、たくさん学びがあることも教えていただきましたが、今日それを実感し感謝しているところです。

今後も保護司信条を念頭に、保護司としてまた会の会計係としての残任期間を精一杯努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今年度の活動

1 第七三回 社会を明るくする運動

(1) メッセージ伝達

白河市



白河方部保護司参加

畑山清寿課長より
圓谷光昭副市長へ

白河市



白河方部保護司参加

中島村



中島方部保護司参加

新妻会長より
加藤幸一村長へ

矢吹町



矢吹方部保護司参加

新妻会長より
小松健太郎副町長へ

西郷村



西郷方部保護司参加

新妻会長より
高橋廣志村長へ

泉崎村



泉崎方部保護司参加

新妻会長より
箭内憲勝村長へ

西郷村



ショッピングセンター前

泉崎村



泉崎役場前

白河市



ショッピングセンター前

中島村



吉子川地区内

矢吹町



矢吹駅

矢吹町



矢吹町役場前

(2) 街頭啓発活動及び他団体との連携事業

第40回 県更生保護大会

・十一月十日
・いわき市

受影者(白河地区)

法務大臣表彰

加藤 芳子

更生保護法人全国保護司連盟
理事長表彰

池嶋 知与 内藤 信光

東北地方更生保護委員会委員長表彰

吉田 茂典 渡辺 浩志

東北地方保護司連盟会長表彰

佐藤 勝 海上 泰子
高橋 廣志

福島県知事感謝状

岡崎 利直 國分 和好
篠宮 正巳 水戸 邦夫

福島保護観察所長表彰

株式会社大道技術設計
社長 門馬 智幸

福島保護観察所長感謝状

福島県保護司会連合会会長表彰

川瀬 光子 小松 道男
深谷 拓男 古川 晃

学校訪問を終えて

社明運動部会長 有賀 良雄

今回、社明運動部会として会員の皆様のご協力により、小中学校訪問を無事終了することができましたこと心より感謝申し上げます。

保護司と学校とが連携しながら子供達が抱える様々な問題や学校の状況等についての情報交換をすることができました。

長期間コロナ禍での学校生活にもマスク姿での表情も見えない中での教育にも先生・生徒のコミュニケーション等にも多大な労苦を伺うことができました。五箇中学校を訪問することで校長先生と面談し、学校全体の問題や保護者との関わり、生徒の校内活動等々話題する中で学校側からの案内で、是非十二月二十三日(土)閉校記念カウントダウンセレモニーをする旨の話しがあり、七十七年の歴史に幕を閉じるので足を運んで下さい。私自身も六十年前の卒業生でもあり

喜んで出席することにしました。当日を迎え閉校される寂しさを胸に中学時代にタイムスリップし想いを寄せながら会場へ、五箇中学校の沿革と歩みを題する記念映像が始まりました。過去が思い出され来場されている方々も画像に見入りました。そして記念演奏が、十一月に和太鼓日本一になった帝京安積高等学校和太鼓部による演奏で心に響き会場を最高に盛り上げ拍手喝采でした。そして生徒によるダンスパフォーマンス「ファイナルネクスツステージ」合唱「群青」が披露され全生徒十七名による演技となり最後に校歌を来場者全員で唱和されすばらしい記念式典となりました。声掛けして下さった校長先生の一声が地域住民との久々の出会い等々出ました。実行委員の方々のご協力で最後の卒業生を送り出すことができますと思います。校歌の一節「進む我らに榮えあれ」無限である子供達の成長を祈ると共に保護司としての責務を感じた一日でした。

学校訪問

五箇中学校



大信中学校



白河中央中学校



西郷村立米小学校



西郷第一中学校



矢吹中学校



白河市立五箇小学校



中島村立滑津小学校



編集後記

ようやくコロナの影響も落ち着き、二〇二四年が登龍の如く始まるようになった矢先、能登半島の震災によって多くの方々被害に遭われました。人類の歴史は疫病・災害・戦争のくり返しと言われるなか、平穏な日常が送れる事には感謝の念に堪えません。お忙しい中、執筆にご協力して頂きました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

〈広報部会